
混沌の後継者 Fate/Zero Eclipse

天儀凌

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

混沌の後継者 F a t e / Z e r o E c l i p s e

【Nコード】

N 8 3 1 4 Z

【作者名】

天儀凌

【あらすじ】

俺は混沌の後継者なんだとさ、まあ気楽につて・・・いきなり転生つておい！？
まあ良いか混沌の後継者始めるぞ

主人公設定 12月29日更新

アンケート 1月1週目まで

挿絵募集中です

アンケートの説明

はじめまして、家電球形です！

第0話を見て頂ければいいのですが、

アンケートを行います！

この小説では主人公はサーヴァントで召喚されることは確定しています

つまり、聞きたい事は、

主人公のマスターは誰が良いか？

1 ・衛宮切嗣

2 ・言峰綺礼

3 ・間桐雁夜

4 ・その他（名前をお書きください）

で募集します！

一番多かったのを採用させていただきます！

二番目は出来ればiフルートをやってみたいとおもいます！

個人的には言峰さんとやらせてみたいですw

期限は28、29日を予定しています！

よろしく願いします！

アンケートの説明（後書き）

主人公「あのさあ、俺の設定は？」

家電「今日か明日くらいに投稿かな？」

主人公「名前出るよな？」

家電「知らない！」

家電は逃走した！

主人公「つておい待て！」

主人公は追いかけた！

家電「これからもお願いします！」

主人公「逃げんなーーーー！！！」

第0話混沌の始まり（前書き）

はじめまして、家電球形です！

こんな短い駄文ですがよろしく願いします！

では、混沌の後継者が始まります！

第0話混沌の始まり

第0話 混沌の始まり

「あれ、どこなんだここ？」

ふと、目が覚めるとそこは真っ白？いや、真っ黒？まあ、混沌的な空間があった。

「ん、ちよつと待て、ここはどこ？ていつか俺はd「ソの問イにはワたしが答えヨウ」

ってダレだあんた？ってク調ガ！？」

どういう事だ？相手もそうだが俺の口調が崩れてる！？？それになんだこの感覚？

「ようやく、混沌たる私の後釜が見つかったのはいいが、

動揺している所をみても口調からみても心をみてもやはりまだ完全ではないか」

「ん、ドついうコとだ？あと、質問ニコタエロ」

何か誰かさんの口調がきれいになってるし・・・

俺はさらに崩れてるぞ？後心を見る？

ん、姿がようやくはつきり見えるぞ？だけど何だあの黒と白の刻まれた文様？

「む・そういう事か？私の名はカオス、文字通り混沌の神だよ、

そして君は私の後継者に選ばれたという事だ、

そして君は混沌を制御している最中、もう少ししたら慣れるだろう」

は、俺がようは混沌さんの後継者だと？何で俺が？くそ、思考が全然定まらない・・・

「まあ、その状態では仕方ないかな？君は自分の名前すらはつきりしてはいまい、

だからまずは状況説明という」

くっ、納得できないが事実だし頼むとしますかね・・・

「ふっ、それほどまでに嫌なのか？ここが死後の世界だからか？私が混沌だからか？」

自分の状況がその状態だからか？まあ良い、では説明するでしょう」

「まず、この世界だが神界と呼ばれている。まあ上から下まで階層は様々だがね、

そして私は上位十二神の一人だよ」

驚きだな、こりゃ・・・

「・・・・・・・・・・」

「そろそろ隠居したくてね、私の資質を受け持つにふさわしい

人物を探していたんだがそこに君が現れてくれたから助かったよ、

おかげで数百年以上待った甲斐があるものだ」

事情と場所はわかったな、聞きたい事は一つ、それは・・・

「成程な、で、俺はどう死んだんだ？」

「ふむ、慣れてきたようだな、その事に関しては他の神が運悪く交通事故で

殺してしまったと聞いているが？」

こいつ・・・笑いながら話してやがるよ、自分が誰かに命令したな
おい・・・

「はあ、成程なあ・・・で、俺にどうしろと？」

「それなのだがね、まずは他の世界へ転生してもらおうかと思っているのだよ」

転生ねえ、そんなの前世では全く気にしていなかったがなあ・

どうしたもんかな？

するとカオスは笑って、

「安心したまえ、これは強制だからな」

って、どす黒い穴の中に引きずりこまれてる！？どどういう事だ！？

「君はある世界へ行ってもらう、なあに何でもありのような世界だから問題は無いぞ？」

「ちょ、何も無しで行くのか！？」

流石にそれは困るぞ！？

「なあに、知識と経験と切り札はインプットしておくから問題は無い、

それと切り札は自分で決めろ、では行ってくるといい」

「な！？ちよつと待つて」

俺は穴に全て引きずりこまれた・・・

「さて、私の後継者 よ、はたしてどのような混沌へ進むの
かな？」

第0話混沌の始まり（後書き）

すいませんがアンケートを取ります！

誰がマスターがいいか？

1 ・衛宮切嗣

2 ・言峰綺礼

3 ・間桐雁夜

4 ・その他（名前は書いてください）

の中をお願いします！

主人公は原作を知りませんのであしからず

まあアイリスフィールとかでもOKですよ！

ご意見ご感想どしどしどうぞ！

アンケートは28、29日くらいまで取りますよ！

主人公設定（ネタバレ有り）（前書き）

どうも家電球形です！

毎度おなじみの主人公設定です！

では、どうぞ！

少々ネタバレがあるかも？です

主人公設定（ネタバレ有り）

主人公設定

名前 ケイオスⅡＺⅡカイザー（Ｚはツヴァイ）

容姿 長めの黒髪（女性からすればセミロング並か少し長いくらい）に、

金色で柔らかそうで虚ろな目、混沌の神力オスによって

白い肌に黒い刺繍のような文様の服や同様の肌をしている

服装は青いローブ姿で、下は黒い全身鎧を纏っている

靴は普通の黒いブーツに近い靴には白い文様が入っている

イケメンなはずである、本人曰く刺繍を消せば執事に似合い

そう

召喚時、白と黒が混じった翼を出しているが、神霊適正が有る場合は白、

魔族適正が有る場合は黒の割合が多くなるようになっていて、隠すのも可能

性格 混沌という起源もしくは目的意識が有る為、1つ重要視する事は無い

その場合「それは愚鈍だよ」と言う、

第四次聖杯戦争では桜の為に聖杯の破壊に動く

マスター 間桐桜（12月28日確定）

クラス ルーラー（主に支配者という意味です）

(12月28日現在で確定)

属性 混沌・中庸

()内は魔族適正を得ている時

筋力C (B)

耐久B (B)

敏捷C (A)

魔力A + (B)

幸運D (E)

宝具EX

宝具

唯一つの混沌世界(フォー・カオス・ロードワールド)

ランク: EX (E) EX

種別: 概念宝具

混沌内の概念を全て操る事が出来る、概念の大きさと魔力消費が決まる。

但し、関連の少ない概念どうしを扱う場合、魔力消費は増大する。保有スキルの混沌自立、神性・魔性、混沌所持はこの宝具に影響されている。

『虚無』や『無限』等、操れない概念が有る。

但し、それに準ずるような概念は操れる。

クラス別スキル

陣地作成：A

魔術師として、自ら有利な陣地を作りあげる。
”工房”を上回る”神殿”を形成出来る。

保有スキル

混沌自立（単独行動：A＋）

混沌がなくなる事はなく、始祖神である事から。
マスターからの魔力供給が無くてもある程度自立できる。
これ程のランクになると2週間は限界可能。

神性：A＋（F）、魔性：A＋（F）

このランクになると神と同義であるが、
光と影すら伴う混沌なので影になる事で
神霊適性をほぼ全てなくす事が可能である。
その代り反対の魔族適性を得る。

混沌所持：A

精神系、呪術系の魔術を全て遮断出来る。
宝具の場合もAランク以下の場合防ぐ事が可能。
マスターに対魔力D程度、自身に対魔力Bが付く。
マスターにこのスキルを与えるのは可能だが、その場合、
神性ランクか魔性ランクが着き、魔力値が上がる。
自身のステータスは下がる。

この設定で行かせてもらいます

それではアンケート終了後更新しました！

主人公設定（ネタバレ有り）（後書き）

2010年12月26日の会話

ケイオス「結局出したなおい」

家電「まあね」

ケ「容姿とかは？」

家「ころころ変わるからねえ・・・」

ケ「ちょっと話をしようか・・・」（ゴゴゴ）

家「待って！影出ちゃてるからああああ！！！」（逃走）

ケ「待てえええ！！！」（影を出しながら逃走）

これからお願いします！！

アンケート途中経過

どうも、家電球形です！

ただいまの集計経過は、

1・0人

2・0人

3・2人

4・間桐桜（幼少期）2人

イリヤスフィール・フォン・アインツベルン（幼少期）1人

遠坂凜（幼少期）1人

です！

というより、雁夜ブームなんだろうなと最初思っていたんですが、

待つて、4多いぞ！？一体どういう事なんd（ry

それに間桐家強し！？

さらに皆さん幼少期（重複有り）派と雁夜派に分かれた！？

他派閥がないなあ・・・

じゃあ、4・幼少期組、5・その他とさせてもらいます！

27日で切っても変わらないかなあ・・・

でも集計終了は28日予定にさせていただきます！

どしどしどしぞー！

アンケート途中経過（後書き）

ケイオス「おい、もうアクセス2000越え、ユニーク600越え
とはな・・・」

家電「皆さんありがとうございました！できればアンケートをどうぞ
！」

ケ「俺からも感謝する」

家「では、27日か28日でー！！」

ケ「おい、まだ終わってないぞ・・・って行ったのかよ

とりあえず『混沌の後継者』をよろしく頼む」

家「何だ、こついつのも出来るじゃん、フッフ」

ifルート関連っぽいストーリー？（前書き）

どうも！家電球形です！このままだと出なさそうなものを投稿します！

気に入ったものは感想等どうぞ！

ifルート関連っぽいストーリー？

「君はアーサー・ペンドラゴンだな？」

僕は誓っていた・・・正義の味方・・・天秤の守り手になると・・・

「いいや、俺は混沌、ケイオス、ケイオスⅡⅢカイザーだ」

しかしこの黒髪で、金色の目で、白い肌に黒い文様を巻き付けた男が、

「召喚に応じ参上した、問に答えろ、お前が混沌たる俺のマスターなのか？」

僕の存在価値が、僕の理想が、簡単に・・・

「理想はあくまで理想だ、出来るものと出来ないものがあるに決まっているだろう？」

「いいや、それでも僕は少数を切り捨ててきたんだ！」

「いい加減気づけ、その果てにあるのが混沌でも何でもない孤独のみだということを、

それは悪ではない、ただの愚鈍なんだよ、衛宮切嗣」

壊れて崩されていった・・・

「救え、今でも遅くないだろう？その為に召喚されたのだぞ？」

「ああ、やってやるとも、言峰綺礼最後の勝負だ！！」

そして僕はこの戦いに・・・

「良いのか君は？この報酬は君に有るべきだろ？」

「良いのさ、何年後になるかは知らんが・・・」

幸せへの戦いに赴けよ・・・

「っ！？」

あいつは、今どこで何をしているのかな？

い
ち
ろ
ー
ト
衛
宮
切
嗣
解
体
編

ifルート関連っぽいストーリー？（後書き）

はい、今回は衛宮切嗣編をやってみました！

ご感想、ご意見あればどうぞ！

アンケートもお願いします！！

ケイオス「そういえばPVが5000越え、ユニークが1200な
んだと

な？」

家電「それが困るんだよね・・・記念とか記念とかきん」

ケ「壊れたな・・・まあ良いが、『混沌の後継者』よろしく頼むぞ！

俺の混沌の為に！！」

家電「って、お前は嬉しそうだな嬉しs」

アンケート集計経過

間桐桜（幼少期） 4人

間桐雁夜 2人

イリヤスフィール・フォン・アインツベルン（幼少期） 1人

遠坂凜（幼少期） 1人

蒼崎橙子w 1人

です！桜人気です！このままだと桜ルート（多分間桐家救出か聖杯戦争崩壊ルート）ですiffルートの間桐雁夜とあと一人で予定しています！

かなりきついです！

（＼（。ロ＼）ココハドコ？ （ノロ。）ノアタシハダアレ？状態）

まだまだ時間はありますのでどしどしづぞー！

ifルート関連っぽいストーリー？（前書き）

どうも、家電球形改め天儀凌です！

ifルート言峰綺礼編行ってみます！

ifルート関連っぽいストーリー？

私はいつからこの問いをしているのだろうか？

・
・
サーヴァント、アサシンを召喚している時もこんな事を考えている・

この聖杯戦争で、衛宮切嗣との戦いでこの答えを見つけ出す、絶対に・・・

見つかる「おい、お前が混沌たる俺のマスターか？」

何！？確かに私は百の貌のハサンを呼び出したのではないのか！？

「知らん、だがなあ、お前の眼、俺にはわからん事も無いぞ？」

「！？？どういう事だ？」

「お前には情熱が無い？神の加護が無い？違うんだよ、言峰綺礼、俺のマスターよ」

「では、私は何を求めているのだ!？」

っ!?! 待て、落ち着け、こういう時は や を思い出して・・・
!?!

「な、なんだ!?!」

「どうやら、自分の本質から背を向けているだけか、臆病だな」

「貴様に何がわかる、アサシン!?!」

「わかるとも、だがこれは1つの試練だ」

「何?」

「お前は既に見えているのだよ、答えを、聖杯への道を」

「では、聖杯が私を導くと?」

「そつだ、お前ではない、聖杯がだ」

「だがそれは・・・遠坂師と戦う事になる」

「いいではないかね？裏切りもまた必至という事だよ」

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

私は聖杯戦争にどう挑めば良いのか、

衛宮切嗣とどう戦えば良いのか

私の望みとは何なのか

この男は握っているのか・・・

「いいだろう、その道が私の答えになるのだな？」

「ああ、そうだ、来い言峰綺礼これがお前の道だ」

ifルート言峰綺礼編第四次聖杯戦争前

ifルート関連っぽいストーリー？（後書き）

ケイオス「今回は戦争っぽい描写すらないな」

天儀凌「良いじゃんか、別に！！」

ケ「ふーん、まあ『混沌の後継者 Fate/Zero Eclipses』をよろしく頼む」

天儀凌「それではさようなら！」

アンケート集計経過

現在1位 間桐桜 四人

2位 間桐雁夜 三人

3位 幼少期2人（要はイリヤと凜）

蒼崎それぞれw

葛木宗一郎（早い！？） 一人

です！まだまだアンケート募集しますよ！

またアンケート集計経過です、後・・・アンケート追加と一旦打ち切り

天儀凌「どうも！」

ケイオス「投稿時間的にはこんばんわだな、で、今回は何故本文なんだ？」

天「皆さんに感謝の意とアンケートの経過をだな・・・」

ケ「俺はこれは結局シリアスではなくギャグ小説の説明かと」

天「待つて！それは無いぞ！一応シリアスで後書きがボケなんだよこれは！」

ケ「ならシリアス要素はどこにある？」

天「今から出すんだよ今から・・・」

ケ「大丈夫か？本当に・・・」

天「大丈夫だ！多分・・・って、言いたい事はそれじゃなくて！」

ケ「で？」

天「お前何なの？いや、始めにアンケートの集計結果だ！

活動報告の方にも有りますよ」

ケ「ふむふむ、で現在は・・・

間桐桜 4票

間桐雁夜 4票

イリヤ 1票

遠坂凜 1票

蒼崎青子 1票

蒼崎橙子 1票

葛木（ステイナイト派？） 1票

という事だな」

天「そういう事、で今回は他の作品もやって欲しいか

1本で出来るだけ頑張って欲しいかの

意見 調査だ――――！！！！」

ケ「無駄にテンションが高いな・・・」

天「そりゃ、アクセス連日4000越え、ユニーク連日1000越えなら嬉しかろうよ！」

ケ「要は俺もしくは別主人公の他作品を作ってほしいか、作るなかの二択だろ？」

天「素っ気無いな・・・そういう事だ、

という事でアンケートづくしですいませんがアンケートをまた取ります、

他作品をやる・・・更新が遅く、（1、2日は余裕で）文章が短い

他作品をやらない・・・意見が通りにくい

デメリット込みでお願いします！

これは1月1週目が期限予定です！

ケ「という事で『混沌の後継者 Fate/Zero Eclipse』をよろしく頼む」

天「また次回、ご意見ご感想、アンケートお待ちしております！

マスターアンケートは28日終了予定です！（終了時刻は未定）

また、アンケートはこれで一旦打ち切りになるのでご安心下さい」

アンケート終了、連載開始につき

はい、天儀凌です！

2010年12月28日午前10時を持ってマスターのアンケートを終了いたしました！

結果は

間桐桜、間桐雁夜 各4票

イリヤ、遠坂凜、それぞれ蒼崎姉妹、葛木（ステイナイト派？） 各1票

でした！

ですので、雁夜救済ルートか、桜救済ルートか、

聖杯戦争崩壊（これは間桐家にとってノーマルに近い）ルート

か悩んだのですが、雁夜救済ルートは他の人もしているし、

聖杯戦争崩壊ルートも何だかんだで多い・・・

という事でこの『混沌の後継者 Fate/Zero Eclip
se』は、

桜救済ルートです！

なので執筆を始めたいと思います！

余談ですが10000アクセス達成につきifルートも書きます！

この桜救済ルートの事項^{ネタバレ}ですが・・・（見たく無い人はここで終了
です）

- ・イレギュラーサーヴァントである
- ・この第四次聖杯戦争は8組のサーヴァントとマスターで争われる
- ・虫爺を直す考えは今の所は無い（雁夜は有りますよ）
- ・原作ブレイク超有ります
- ・ルートの通り桜が助け、助けられます
- ・桜に召喚されます（当然）
- ・イレギュラーサーヴァントの理由は有ります

・口調、性格ははっきりしません、ただマスターが望む混沌を、です

自分の意志はありますが、また違います

・他のマスターやサーヴァントと交友を持ったり、敵対するのは当然です

ifルートでも書きましたが、関わりを持っています

なので桜救済ルートの中に衛宮切嗣解体ルートも混じったりします

今の所そんな所です！

主人公設定も更新する予定です！

今後も『混沌の後継者 Fate/Zero Eclipse』を
お願いします！

アンケート終了、連載開始につき（後書き）

ケイオス「ふーん、そうだったのか」

天儀凌「そうだな」

ケ「もうアクセス100000越えとはな・・・」

天「ヒヤホー！！という事でついにifルートもしっかり始めますよ！」

ケ「という事だ『混沌の後継者 Fate/Zero Eclip
se』をよろしく頼む」

天「ではでは！」

第1話混沌の召喚（前書き）

どうも、天儀凌です！

ついに第1話投稿です！

お楽しみ下さい・・・

第1話混沌の召喚

私はムシグラにいつまでいるんだろう？

ムシの中にいつまでいるんだろう？

一体私はどうなってるんだろう？

助けてほしい・・・でも助ける人はいない・・・

雁夜おじさんはどこか遠くへ行っちゃうと言ってしまった・・・

私はこんどはどんな授業を受けるの？

目をもう閉じよう・・・暗闇の中に身を置いて・・・あれ？

あれは丸い魔法陣？何で輝いてるの？

誰が出てくる・・・あなたはいつたい誰？

「俺はイレギュラーサーヴァント、ルーラー、召喚に応じ参上した、

問に答える、お前が混沌たる俺を呼び出したのか？」

ルーラーっていう人は青年だった、顔や服に黒い文様を付けて・・・

「わからない・・・でも助けてって・・・思った」

「ならばお前がマスターだ右手を見る」

「?????!!」

右手に三つの紋様？がある・・・

「それは令呪、3つの聖痕、命令権だ、要は俺を援護、規制したり出来るものだ」

「そして俺をしっかり見る」

「何・・・これ？C？B？」

クラス ルーラー

真名 ????

マスター 間桐桜

性別 男

属性 混沌・中庸

筋力 C

耐久 B

敏捷 C

魔力 A+

幸運 D

宝具 ??

クラス別スキル

陣地作成：A

魔術師として、自ら有利な陣地を作りあげる。
”工房”を上回る”神殿”を形成出来る。

保有スキル

混沌自立（単独行動：A＋）

混沌がなくなる事はなく、始祖神である事から。

マスターからの魔力供給が無くてもある程度自立できる。

これ程のランクになると2週間は限界可能。

神性：A＋（F）、魔性：A＋（F）

このランクになると神と同義であるが、

光と影すら伴う混沌なので影になる事で

神霊適性をほぼ全てなくす事が可能である。

その代り反対の魔族適性を得る。

???

「それはステータス透視能力だ。サーヴァントを見ただけで俺はもちろん、

他の奴らのステータスも少し見えるぞ」

「でも、何で私が」

「知らん、聖杯の遊戯なのかもしれないが？」

「???それでも私をマスターにするなんてどういつ事だろう?」

「・・・・・・・・・・」

「ところでマスター「桜って呼んで」・・・では桜、君は何を願うのかね？」

もう私はムシに犯されているし・・・でも・・・

「私は・・・・・・・・会いたい、姉さんや母さんや雁夜おじさんに・・・」

「ふむ、ではまず「少し待ってくれんかのう?」「む?」

お爺様・・・たぶんルーラーっていうこの人が出てきたから来たんだ・・・

「何かね?」

ルーラーは何か厳しい表情になった・・・

「僕は間桐臓硯、間桐家の家老のような者じゃよ、カカカ」

「ふむ、ならば死んでくれ」

「何？アアアアガガ！??」

「俺のマスターの為、狂いし元凶の虫はとく消えろ」

「グガアアア・・・」

お爺様を燃やし尽くした！？何なの？あの黒い炎？

「では、君の虫を変えよう」

出来るの？と思ったらルーラーは私に触れ、

「『反抗』を『従順』に変更、我が混沌が命ずる」

「うつ！?・・・ってあれ？」

術師：「君を浸食していた寄生虫を安全なものに変えておいた、これで魔

としては問題無いな、数日すれば体も慣れる」

「どういう事？」

「間桐臓硯は死に、君は自由の身になったという事だ、次に間桐雁夜だ」

「う、うん」

要は私は治されて、怖かったお爺様はもういないんだよね？

「そういう事だ、さあ、おじさんの所へ行くぞ」

「心が読めるの？」

「少しだけだ、さて彼がいる部屋はどこかね？」

「何！？間桐臓硯が死んだ！？」

「ああ、私が全て滅した、後は君だけなんだよ、間桐雁夜」

「お願い、雁夜おじさん」

「ああ、わかってるよ桜ちゃん」

「では、すぐに・・・『反抗』を『従順』に変更、我が混沌が命ずる」

「うつ!?!・・・・・・本当に痛みが消えた・・・・」

「重ねるぞ、その分リスクだが仕方あるまい、

『崩壊』を『再生』に変更、我が混沌が命ずる」

「どういう・・・・っつ・・・・ぐう!?!」

「雁夜おじさん、って・・・・」

雁夜が急に苦しみだして、私も倒れた？

「む、魔力切れか? まあ、ゆっくり休むといい」

そうしてルーラーの言うとおり私は眠りについた・・・・

第1話混沌の召喚（後書き）

天儀凌「という事で第1話です！」

ケイオス「臓硯は殺したな」

天「うん、どうしようか悩んだけどね・・・」

ケ「間桐桜がマスターか、まあ言った通りだな」

天「雁夜派の人すいません、うちは桜>雁夜だと思っんで」

ケ「という事で俺の魔術？が出てきたな」

天「はい、これがルーラーもといケイオスの宝具です！」

ケ「次回はさらに内容が濃くなりそうだな」

天「そうだね、ではさようなら、今度は第2話で会いましょう！」

「ご意見ご感想どしどしどうぞ！アンケートもお願いします！」

ケイオスの絵を描きたい方もどうぞ！もしも通った場合は

挿絵として載せます、挿絵無しの場合も有りますが」

ケ「では『混沌の後継者 Fate/Zero Eclipse』
をよろしく頼む」

第1話混沌の召喚・裏（前書き）

どうも、天儀凌です！

第1話裏行かせてもらいます！

それではどうぞ！

第1話混沌の召喚・裏

ん、ここは混沌の中か！？

「っ！？うぐあああ！？」

何だこれは！？

混沌の全概念を記録、及び肉体の更新

ケイオスⅡZⅡカイザーの経験を記録

唯一つの混沌世界を獲得
フォー・カオス・ロードワールド

「何だこれは・・・って混沌になったのか俺は・・・」

変わっていく、俺が
であつた人格は消えていく・・・

「ふむ、俺の名はケイオス、ケイオスⅡZⅡカイザーだな」

自分を確認した後、何か呼ばれる気がした・・・

私はムシグラにいつまでいるんだろう？

それは知らない、自分で決める

ムシの中にいつまでいるんだろう？

それも知らん、絶望の果てだと？そんなのはただの愚鈍だよ

一体私はどうなってるんだろう？

衰弱してまともでは無いか・・・

助けてほしい・・・でも助ける人はいない・・・

ほう、諦めまだ願うと？質は悪くても混沌だなあ・・・

雁夜おじさんはどこか遠くへ行っちゃうと言ってしまった・・・

おじさんとは・・・また混沌の気配がする・・・

私はこんどはどんな授業を受けるの？

授業？そんなのは受けなくてもいい、構わない

目をもう閉じよう・・・暗闇の中に身を置いて・・・

まだ早い、その混沌、俺が見定めてやろう！

聖杯戦争、冬木、サーヴァントとマスター、万能の願望器、現代の知識・・・

俺は、呼ばれる声に応じ目を覚ました・・・

あなたはいつたい誰？

ん？驚きで声が出てないだど？つまり故意では無い？

「俺はイレギュラーサーヴァント、ルーラー、召喚に応じ参上した、

問に答える、お前が混沌たる俺を呼び出したのか？」

まあ、質問としてはこれだろう、聖杯戦争・・・

今回の世界は冬木という所だな・・・

「わからない・・・でも助けてって・・・思った」

ふむ、混沌であるには間違いない、いずれ破滅が待っていた将来だ、

俺が変えても問題無いだろう？

「ならばお前がマスターだ右手を見る」

まずは聖杯戦争についておしえないとなあ・・・

「?????!!」

「それは令呪、3つの聖痕、命令権だ、要は俺を援護、規制したり出来るものだ」

まあ、令呪は教えないと、この子が間桐桜である事は

俺の唯一つの混沌世界の劣化版の『分別』でわかっているしな、

間桐家は令呪を作ったお膝元だというしね・・・後は

「そして俺をしっかりと見ろ」

ステータス透視である、これはとても重要だ、特に俺にとってはな

「何・・・これ？C？B？」

「それはステータス透視能力だ。サーヴァントを見ただけで俺はもちろん、

他の奴らのステータスも少し視えるぞ」

ん、何か不安があるようにしているか？

「でも、何で私が」

「知らん、聖杯の遊戯なのかもしれないが？」

彼女のマスターになった理由については軽くあしらった、

おそらく、俺はイレギュラー（……………）、

カオス（あの野郎）のせいとは言えない……

「……………」

やはり、何か願う事が有るか聞いてみるか？

「ところでマスター「桜って呼んで」……では桜、君は何を願うのかね？」

ほう、名も知らなかった相手に名前とは……救世主扱いかね？

良いじゃないか、やってやろうそれもまた混沌なのだから……

「私は……会いたい、姉さんや母さんや雁夜おじさんに……」

『知識』、『分別』、桜の言葉に働け、我が混沌が命ず……

ふむ、遠坂凜、遠坂葵、間桐雁夜か……

「ふむ、ではまず「少し待ってくれんかのう？」む？」

誰かな？あの魔性めいた老人は……

間桐蔵硯、マキリ・ゾオルケン、始まりの一人、不老不死を願う、

変質、第三魔法へブンスフィールから自身の不老不死へと墮落

間桐雁夜、遠坂桜改め間桐桜に対しての……

今の我が混沌にあのような蟲は必要無し……

『破滅』、『暴食』の概念を我が混沌の炎に与える……

「何かね？」

柔らかい表情から真剣な表情へ変化する・・・

「僕は間桐臓硯、間桐家の家老のような者じゃよ、カカカ」

俺が得た情報と一致、即座に我が混沌が命ず、

『破滅』、『暴食』の炎よ、あの蟲を概念諸共焼き尽くせ！

「ふむ、ならば死んでくれ」

「何？アアアアアガガ！？？」

「俺のマスターの為、狂いし元凶の虫はとく消えろ」

「グガアアア・・・」

間桐蔵硯という名の蟲は焼かれた・・・

ふむ、初めてにしては上手くいったな・・・

この屋敷全体の蟲自体を殺したか・・・

「では、君の虫を変えよう」

さて、桜君に埋め込まれているであろう蟲を変えようとするかな・・・

出来るか？無論、我が混沌はほぼ全て（・・・）の概念が有る

まあ、自分には触れなくても良いんだが、相手となると触れないとなあ・・・

「『反抗』を『従順』に変更、我が混沌が命ずる」

「うつ！？・・・ってあれ？」

・ 一定の（・・・）概念を他の（・・・）概念に変えるのは難しいな・・・

まあ、反対に似た（・・・・・・・・）これで難しいのだ、

近くも遠くもない（・・・・・・・・）概念を変えるのは難しいかね？

「君を浸食していた寄生虫を安全なものに変えておいた、これで魔術師

としては問題無いな、数日すれば体も慣れる」

あくまで魔術師だ、人としての心は自分で取戻してこそだと俺は思う

「どついつ事？」

「間桐臓硯は死に、君は自由の身になったという事だ、次に間桐雁夜だ」

「う、うん」

ん？君の思う通り、君は治り、

間桐蔵硯は俺オリジナル（……）の獄炎で焼かれたという事だな、

・ どうやら桜は頭は良いようだ、魔術師としても大成するなこれは・

虚数属性、水属性の多重属性とは……しかも魔術回路の多さ、

間違いない、これは育てれば立派な魔術師になる、

俺の特訓場所^{……}にでも連れ込むか？

「そういう事だ、さあ、おじさんの所へ行くぞ」

「心が読めるの？」

まあ、『知識』と『分別』を使っているからだが……

「少しだけだ、さて彼がいる部屋はどこかね？」

さて、もう一人治療してみるか……

・ 俺は間桐雁夜に間桐蔵硯を焼き、
・ 間桐雁夜の治療を行う事を言った・

「何！？間桐蔵硯が死んだ！？」

「ああ、私が全て滅した、後は君だけなんだよ、間桐雁夜」

「お願い、雁夜おじさん」

桜も一生懸命頭をさげている・・・

「ああ、わかってるよ桜ちゃん」

雁夜もいきなりの事で動揺している・・・

「では、すぐに・・・『反抗』を『従順』に変更、我が混沌が命ずる」

蟲の活動の概念を変更させる・・・

「うつ！?・・・本当に痛みが消えた・・・」

まだ、する事はある・・・

「重ねるぞ、その分リスクーだが仕方あるまい、

『崩壊』を『再生』に変更、我が混沌が命ずる」

身体も治さんとなあ・・・

「どういう・・・つつ・・・ぐう!？」

「雁夜おじさん、って・・・」

二人ともダウンか・・・

「む、魔力切れか？まあ、ゆっくり休むといい」

雁夜は身体 of 急な回復、桜は急激な魔力消費で・・・

すべての俺にかかった概念は排除、我が混沌が命ずる、

また、雁夜 of 概念は完了次第排除する、っと・・・

これは唯一つの混沌世界はあまり使わない方が良いな・・・

魔力燃費がとてつもなく悪い（・・・）のだ・・・

「バーサーカー・・・」

狂戦士に実体化してもらい、

「aaa・・・」

「すまんが、手伝ってくれ、寝室ぐらいわかるだろ？」

「aaa・・・」

狂戦士と共に、俺は寝室に向かうのだった・・・

第1話混沌の召喚・裏（後書き）

天儀凌「という事で第1話の裏です！」

ケイオス「ふーん、まあどうでもいいが・・・」

天「良くない！！まあ、特に何もないので、

ご意見、ご感想どしどしどうぞ！！

他作品アンケートもどうぞ！！」

ケ「では『混沌の後継者 Fate/Zero Eclipse』
をよろしく頼む」

第2話混沌の説明、暗躍開始（前書き）

どうも！天儀凌です！

日間ランキング85位、

PVアクセス20000到達、ユニーク5000到達！

本当に感謝です！

それでは第2話どうぞ！

ちなみに基本的に表は桜視点、裏はルーラー（ケイオス）視点です

「そんな物を俺に使ったのか！？いや、確かに・・・」

雁夜おじさんも驚いている・・・

それはそつだ、1年前に帰っているんだから・・・

「深く考える必要は無い、単に俺の宝具が

唯一つの混沌世界という名の概念宝具のみを

持っていただけだ・・・俺は自分の宝具の概念とお前達の概念を入れ替えた（・・・・・・）

に過ぎないのだからね、私の『知識』は君が生き残ると信じていたようだよ・・・」

「・・・・・・なら、バーサーカーがおとなしいのは・・・？」

「マスターとの魔力パスで狂化が崩壊したのかもな」

「何故だ？お前、『崩壊』を『再生』に変更、と言ってなかったか？」

「だからだ、概念が普通は消える事はない、それに入れ替えた（・・・）だけだ、

バーサーカーに『崩壊』の概念が移っていた可能性はあるからな」

「・・・」

ん？ルーラー、ううんケイオスのステータスが・・・

「聞いて良い？」

「ああ、すまない、つい怒っちゃってね・・・」

「何かな？」

「何か追加されてるの、そのステータスが？」

「見せてくれ、マスター」

「うん・・・」

クラス ルーラー

真名 ケイオスⅡZⅡカイザー

マスター 間桐桜

属性 混沌・中庸

性別 男

ステータス () は魔族適正が有る場合

筋力 C (B)

耐久 B (B)

敏捷 C (A)

魔力 A + (B)

幸運 D (E)

宝具 EX

宝具

唯一つの混沌世界（フォー・カオス・ロードワールド）

ランク：EX（E）EX）

種別：概念宝具

混沌内の概念を全て操る事が出来る、概念の大きさと魔力消費が決まる。

但し、関連の少ない概念どうしを扱う場合、魔力消費は増大する。

保有スキルの混沌自立、神性・魔性、混沌所持はこの宝具に影響されている。

『虚無』や『無限』等、操れない概念が有る。

但し、それに準ずるような概念は操れる。

クラス別スキル

陣地作成：A

魔術師として、自ら有利な陣地を作りあげる。

”工房”を上回る”神殿”を形成出来る。

保有スキル

混沌自立（単独行動：A+）

混沌がなくなる事はなく、始祖神である事から。

マスターからの魔力供給が無くてもある程度自立できる。

これ程のランクになると2週間は限界可能。

神性：A+（F）、魔性：A+（F）

このランクになると神と同義であるが、光と影すら伴う混沌なので影になる事で神霊適性をほぼ全てなくす事が可能である。その代り反対の魔族適性を得る。

混沌所持：A

精神系、呪術系の魔術を全て遮断出来る。

宝具の場合もAランク以下の場合防ぐ事が可能。

マスターに対魔力D程度、自身に対魔力Bが付く。

マスターにこのスキルを与えるのは可能だが、その場合、神性ランクか魔性ランクが着き、魔力値が上がる。

自身のステータスは下がる。

「ふむ、全て出揃ったな・・・それで良いぞ、慣れてきたな桜」

「うん、ありがとうルーラー」

「桜を救ってくれたのは感謝する、俺じゃ確かに無理だった、

だが俺にバーサーカーがいるのに、どうしてお前は召喚されたんだ？」

「さあな、桜にも言ったが聖杯の遊戯だと思っかね・・・」

それでも、おかしいとは思うのは何故だろう？

「それでも8体は異常なんですよ？あなたは何かわからないの？」

しばらくしてルーラーが考えて目を瞑って言った、

「ふむ、聖杯が穢れている（……）のだとしたら？」

「えっ！？」「なっ！？」

嘘、そんな事って……

「まずは聖杯戦争を俺の宝具で調べれば良いだろう、それでもって

俺が歓迎された理由もな」

何故か笑うルーラーが怖い……お爺様がいるような気がする、でも……

「ルーラー……お願い」

「『本』という概念を起動、そして聖杯の『知識』を示せ、我が混沌が命ずる」

何か黒い分厚い本が出てきて、ルーラーはめくり始めた・・・そして、

「ふむ・・・む？これは・・・」

「どうしたの？」

「成る程なあ、これなら俺が歓迎される訳だ・・・」

わかったぞ、マスター（・・・）、聖杯は文字通り穢れている」

「どうい^だう事？」

雁夜おじさんと同じ質問をしてみた・・・聖杯が穢れている？

「簡単に説明するぞ、時は六十年前第三次聖杯戦争、

アインツベルンは、最強の英霊を呼び出そうとある英霊を呼び出そうとした」

「誰だそいつは・・・？」

雁夜おじさんが聞く、一体最強の英霊って？

「それは拝火教、ゾロアスター教のこの世全ての悪、アンリマユ」

「っ！？でもそれは・・・神の領域だろ？不可能なんじゃ」

「その通り、そんな事は不可能だ、

代わりに召喚されたのはクラスはアヴェンジャー（復讐者）、

アンリマユとされ犠牲にされたただの村の少年だった」

「・・・・・・・・」

「無論、人間と同等に等しい奴では英霊には勝てない、

四目目でアインツベルンは敗退しアヴェンジャーは大聖杯に吸収された、

だがそれだけでは終わらない、人の悪意を持ったアヴェンジャーは

ある願いを聖杯で叶えてしまった・・・ただ悪であれとね、

そして聖杯の器、小聖杯も途中で破壊されてしまった為、

大聖杯に悪の魔力は溜まり続け、無から破壊でしか叶えられない欠陥品になった」

「じゃあ、聖杯って最大の呪いの品って事か!？」

「無論、しかもまだ続いてね、令呪ってのはサーヴァントを自害させる

ものでね、聖杯の中身はサーヴァント7体分の魔力、

そしてアインツベルンの専用のホムンクルスだそうだ」

「待て、それじゃあ・・・」

「ま、バーサーカーも俺もそう考えて殺されても良さそうな感じがするな、

バーサーカーも願いが叶えば良いそうだし、俺は桜の為に行動するだけだ」

「じゃあ、ルーラー、私と一緒に居て・・・？」

「なら、私はルーラー（救世主）といっただけだ、一つめの令呪を使う・・・」

「なっ・・・はあ・・・良いだろう、やってやるこの聖杯戦争、完膚無きまでに

壊し続けてやろう」

「うん！」

「俺も協力させてくれ！」

雁夜おじさん・・・

「良いの？」

「ああ、聖杯が壊れてるのなら俺も協力する、幸い身体は治ってるんだ」

「ふう、ならば作戦会議だ、この戦争必ず勝つぞ」

第2話混沌の説明、暗躍開始（後書き）

天儀凌「第2話投稿です！」

ケイオス「ま、日間ランキングベスト100入り、

総合アクセス20000突破、ユニーク5000突破ならな」

天「ありがとうございます！ご意見ご感想、

他作品アンケート、挿絵どしどしどうぞ！」

ケ「では『混沌の後継者 Fate/Zero Eclipse』をよろしく頼む」

天「これで最後の更新かもしれないので、皆さん良いお年を・・・」

第2話混沌の説明、暗躍開始・裏（前書き）

どうも、天儀凌です！

日間ランキングまだまだベスト100継続中です！
それでは第2話裏どうぞ！

第2話混沌の説明、暗躍開始・裏

「では、どこから聞きたい？もしくはしてほしいのかな？桜、そして間桐雁夜」

マスターには全て理解した上で決めて貰おう、

裏切りも俺の身体にとっては良いかもしれないが、それでは悪のみ・

愚鈍すぎるのでね・・・

「桜ちゃんから聞いていいよ、自分のサーヴァントだからね・・・」

やはり、雁夜は魔術師ではなく、魔術使い（・・・）、

いや一般人に近いな・・・

「えっと・・・真名を教えて？」

ん？そういえば・・・

「ああ、自己紹介がまだだったか、俺はケイオス、ケイオスⅡＺⅡカイザーだ」

さて、ここからが本題だろうな・・・

「うん、よろしく、まず・・・何で雁夜おじさんが昔に戻ってるの？」

当然か、普通こんなボロボロの状態になれば、回復どころか全快なんぞ

ランクAオーバーの宝具の場合でも無理だろうしな・・・

「それは俺の宝具が起因している、ま、最後は相手の精神力頼りなんだが」

あの蟲を入れられていて1年粘ったのだ、出来ると判断して間違いは無い、

俺の中の『知識』もそう判断したしな、

それに概念変換は肉体、精神全てを変革する物であるし・・・

「そんな物を俺に使ったのか！？いや、確かに・・・」

雁夜も驚く、それはそうだが、危険な物を大丈夫ですと受け取る馬鹿もそういない

だが身体が治って思考に嵌っている・・・

まあ、言つべき事は基本単純だ・・・

「深く考える必要は無い、単に俺の宝具が

唯一つの混沌世界という名の概念宝具のみを

持っていたただ・・・俺は自分の宝具の概念とお前達の概念を入れ替えた（・・・・・・）

に過ぎないのだからね、私の『知識』は君が生き残ると信じていたようだよ・・・」

「・・・・・・・・・・なら、バーサーカーがおとなしいのは・・・・？」

考えうるのは一つだ・・・

「マスターとの魔力パスで狂化が崩壊したのかもな」

「何故だ？お前、『崩壊』を『再生』に変更、と言ってなかったか？」

確かにその疑問は正しい、だが間違えている事がある、それは前提だ

「だからだ、概念が普通は消える事は無い、それに入れ替えた（・・・・・・・・）だけだ、

バーサーカーに『崩壊』の概念が移っていた可能性はあるからな」

これは流石に予想外ではあったが・・・

「・・・・・・・・」

雁夜は啞然としているな、それはそうだが、自分を苦しめていたのが急に収まったのだ、

ん、桜が疑問点を浮かべている？というよりよく黙ってたな・・・

「聞いて良い？」

「ああ、すまない、つい怒っちゃってね・・・」

雁夜も反省している・・・別に怒ってないぞ、そっちこちらも桜も・・・

というより治したのだから怒られる道理は無いぞ？

「何かな？」

「何か追加されてるの、そのステータスが？」

「見せてくれ、マスター」

「うん・・・」

クラス ルーラー

真名 ケイオスⅡZⅡカイザー

マスター 間桐桜

属性 混沌・中庸

性別 男

ステータス () は魔族適正が有る場合

筋力 C (B)

耐久 B (B)

敏捷 C (A)

魔力 A + (B)

幸運 D (E)

宝具 EX

宝具

唯一つの混沌世界(フォー・カオス・ロードワールド)
ランク: EX (E) EX

種別：概念宝具

混沌内の概念を全て操る事が出来る、概念の大きさと魔力消費が決まる。

但し、関連の少ない概念どうしを扱う場合、魔力消費は増大する。保有スキルの混沌自立、神性・魔性、混沌所持はこの宝具に影響されている。

『虚無』や『無限』等、操れない概念が有る。但し、それに準ずるような概念は操れる。

クラス別スキル

陣地作成：A

魔術師として、自ら有利な陣地を作りあげる。
”工房”を上回る”神殿”を形成出来る。

保有スキル

混沌自立（単独行動：A+）

混沌がなくなる事はなく、始祖神である事から。マスターからの魔力供給が無くてもある程度自立できる。これ程のランクになると2週間は限界可能。

神性：A+（F）、魔性：A+（F）

このランクになると神と同義であるが、光と影すら伴う混沌なので影になる事で神霊適性をほぼ全てなくす事が可能である。その代り反対の魔族適性を得る。

混沌所持：A

精神系、呪術系の魔術を全て遮断出来る。

宝具の場合もAランク以下の場合防ぐ事が可能。

マスターに対魔力D程度、自身に対魔力Bが付く。

マスターにこのスキルを与えるのは可能だが、その場合、神性ランクか魔性ランクが着き、魔力値が上がる。

自身のステータスは下がる。

「ふむ、全て（・・・）出揃ったな・・・それで良いぞ、慣れてきたな桜」

やはり、桜を育てよう・・・魔力は霊脈とのパスを少しだけ繋げれば・・・

「うん、ありがとうルーラー」

感謝は要らないぞ？それは自分の力量が上がっただけだろうに・・・

「桜を救ってくれたのは感謝する、俺じゃ確かに無理だった、

だが俺にバーサーカーがいるのに、どうしてお前は召喚されたんだ？」

・ 当然の疑問を投げかける雁夜・・・まあ、当然と言えば当然だが・・・

「さあな、桜にも言ったが聖杯の遊戯だと思っがね・・・」

桜の時と同じ答えを返す・・・

「それでも8体は異常なんでしょ？あなたは何かわからないの？」

ふむ、イレギュラー、聖杯、俺、混沌を司る者・・・うん、混沌？

「ふむ、聖杯が穢れている（・・・・・・）のだとしたら？」

「えっ！？」「なっ！？」

だろうな、俺もそう思いたい、なぜならそれは面倒になってくるからだ、

え、観点が違う？そんな物は馬鹿（作者）に聞け、

ん、変な声が・・・まあともかく、

「まずは聖杯戦争を俺の宝具で調べれば良いだろう、それでもって

俺が歓迎された理由もな」

混沌を歓迎するとは一体何の導きだ？

おっと、おもわず笑みが・・・

「ルーラー・・・お願い」

・
怖がらせたな、というよりそのお願いは当然だ、すぐ探してやる・・・

「『本』という概念を起動、そして聖杯の『知識』を示せ、我が混沌が命ずる」

黒い分厚い本が出てきたな・・・俺はめくり始めた・・・そして、

「ふむ・・・む？これは・・・」

うわ・・・これは歓迎されるに違いないな・・・

「どうしたの？」

「成る程なあ、これなら俺が歓迎される訳だ・・・

わかったぞ、マスター（・・・）、聖杯は文字通り穢れている」

間違いない、どう見てもこれは災厄の類だ・・・

「^だどういう事？」

桜と雁夜は同じ質問をしてみた・・・聖杯が穢れている？と・・・

それはそうだ、聖杯は万能の願望器だとされていたのだから・・・

「簡単に説明するぞ、時は六十年前第三次聖杯戦争、

アインツベルンは、最強の英霊を呼び出そうとある英霊を呼び出そうとした」

「誰だそいつは・・・？」

「それは拝火教、ゾロアスター教のこの世全ての悪、アンリマユ」

「っ！？でもそれは・・・神の領域だろ？不可能なんじゃ」

「その通り、そんな事は不可能だ、

代わりに召喚されたのはクラスはアヴェンジャー（復讐者）、

アンリマユとされ犠牲にされたただの村の少年だった」

俺というイレギュラー（・・・・・・）はいるんだけどなあ・・・

「・・・・・・」

「無論、人間と同等に等しい奴では英霊には勝てない、

四日目でアインツベルンは敗退しアヴェンジャーは大聖杯に吸収さ

れた、

だがそれだけでは終わらない、人の悪意を持ったアヴェンジャーは

ある願いを聖杯で叶えてしまった・・・ただ悪であれとね、

そして聖杯の器、小聖杯も途中で破壊されてしまった為、

大聖杯に悪の魔力は溜まり続け、無から破壊でしか叶えられない欠陥品になった」

「じゃあ、聖杯って最大の呪いの品って事か!？」

ここからサーヴァントならさらに驚愕する所だな・・・

「無論、しかもまだ続いてね、令呪ってのはサーヴァントを自害させる

ものでね、聖杯の中身はサーヴァント7体分の魔力、

そしてアインツベルンの専用のホームンクルスだそうだ」

「待て、それじゃあ・・・」

「ま、バーサーカーも俺もそう考えて殺されても良さそうな感じがするな、

バーサーカーも願いが叶えば良いそうだし、俺は桜の為に行動するだけだ」

死ぬなら死ぬで構わない、基本どうでもいいのだ、俺にとってはな・

「じゃあ、ルーラー、私と一緒に居て・・・？」

まじか！？・・・いや、本気か？令呪で命令するとは、口調が元に戻りかけた・・・

「なっ・・・はあ・・・良いだろうっ、やってやるこの聖杯戦争、完膚無きまでに

壊し続けてやろう」

「うん！」

「俺も協力させてくれ！」

雁夜、まあ当然だな桜は無事、聖杯が穢れてるのなら論外といった所か・・・

「良いの？」

「ああ、聖杯が壊れてるのなら俺も協力する、幸い身体は治ってるんだ」

ならやる事は一つか・・・

「ふう、ならば作戦会議だ、この戦争必ず勝つぞ」

第2話混沌の説明、暗躍開始・裏（後書き）

天儀凌「嬉しいね、PVアクセス30000越え、ユニーク6000越え！」

ケイオス「良かったな、ま、これ程とは予想しなかったよ」

天「本当、ここで感想や意見、アンケートをしてくれた人に感謝します、

高尾様、ギロ様、NN様、さまよう人様、ポツポ様、FET様、

毛根死滅丸（あだ名は毛利）様、杉子様、himuro様、

アイス様、南雲ン様、誠にありがとうございます！」

ケ「これからも『混沌の後継者 Fate/Zero Eclipse』をよろしく頼む」

天「ではでは！アンケート投票、挿絵募集中ですよ！」

第3話混沌の提案（多重視点に変更）（前書き）

どうも、天儀凌です！

PVアクセス40000越え、ユニーク8000越え感謝です！
それではどうぞ！

第3話混沌の提案（多重視点に変更）

（ケイオス（ルーラー） side）

「ふう、ならば作戦会議だ、この戦争必ず勝つぞ」

「どうするの？」

「まずは敵対するであろうサーヴァントとマスターの排除、もしくは無力化、

聖杯の破壊もしくは無力化、出来れば元に戻す」

「そんな事出来るのか!？」

・
・
雁夜の疑問は当たり前だ、あれ程の魔力、出来ないのが当然、だが・

「やってみるしかあるまい、幸いチャンスはあるだろう、

だからまずは二人にこの腕輪を付けてくれ、『試練』と『増大』と

『遅延』を纏わせてある」

二人の戦力アップからだ・・・幸い3日くらい準備期間が余っている筈だからな

「どれくらい上がる（・・・）んだ？」

「魔術回路と魔力が増える、後は俺、つまり混沌の加護が付くからな」

「・・・危ないか？」

「問題ない、俺は情報収集を行うから

二人はそれを付けて普通に生活していてくれ」

「ケイオス、危ない？」

「桜、問題無いよ、既にアサシンが見張り（・・・）しているくらいは

『理解』で気配感知は出来ているし、既に起こった事なら『知識』
を伝える、

後、桜は俺を通常はルーラー（……）で呼んでくれ、

何故かアサシンが数体ここにいるみたいだしな……」

「うん、わかった、でも……なんでアサシンが？」

「おそらく一番先に召喚されていたとしか考えられない、

それに数体という事は分身する宝具やスキルなんだろう」

厄介だ、暗躍は暗殺者^{アサシン}の真骨頂、俺やバーサーカーではな……

「後、マスターとサーヴァントの申請はしたのか？」

「俺は行っているけど、桜ちゃんは……」

やはり、まずいな……『知識』が役に立つおかげでむしろやりづ
らく感じる

「まずいな、アサシンのマスターは言峰綺礼、監督役である言峰璃正の息子、

そして聖堂教会とも交友のある遠坂時臣、この3人が手を組んでいるようだ、

だから申請だけしてさっさと帰ってくるとしよう」

「遠坂・・・時臣・・・」

雁夜はやはり桜を間桐家に移した事に怒っている様だ・・・

「父さん・・・」

桜は自らの父であつた時臣には敵対したくは無さそうだ・・・

「ま、時臣の件は後だ・・・他のマスターについても全員出揃つたようだな、

アインツベルンからは『魔術師殺し』衛宮切嗣、サーヴァントはセ

イバーか・・・

うお、こいつは時臣より厄介だな、魔術師なくせに現代武器の使用、殺害方法が狙撃、毒殺、公衆の面前で爆殺、乗り合わせた旅客機ごと撃墜とは・・・

半端な覚悟で出来る事じゃない、リスクの大きさ、過密なスケジュール、間隔の短さ、

複数の計画を同時進行、時期が戦況が激化し破滅的になった時期ばかり・・・

破綻者と言った所かな、脅迫観念があると見える」

「遠坂からはもちろん当主の遠坂時臣か、サーヴァントはアーチャー・・・」

火属性、宝石魔術を操る・・・厄介だが、信念が魔術師や貴族

寄りだ、叩くチャンスはあるな・・・」

「間桐からは・・・って、要らないな・・・」

他のマスターは落伍者と子供としか思うまい、

時臣に至っては手加減もあるかもな」

「外来マスターは・・・ケイネス・エルメロイ・アーチボルト、

サーヴァントはランサー、水と風の二重属性、

魔術師組織『時計塔』の花形魔術師か・・・また面倒な魔術師な事だ」

・ 「ウェイバー・ベルベット・・・ケイネスの弟子で、三流魔術師・・・」

サーヴァントはライダー、まあ大穴を引いたらと言った所か」

「言峰綺礼・・・聖堂教会からのマスター、サーヴァントは言った通りアサシン、

一度は魔術師を狩る“第八”の代行者にまで至った実力者、

一般的には三年前から遠坂時臣に師事、後に令呪を宿し師と離反とされている、

だが水面下では遠坂時臣と協力、修得したカテゴリーは、

錬金、降霊、召喚、ト占^{ほくせん}・・・治癒に至っては時臣を超えるか、

『信仰』が無い、『情熱』が無い、これは厄介だ」

「最後に雨生龍之介、快樂殺人者・・・サーヴァントはキャスター、

おそらく聖杯戦争が何たるかわかっていない、一番の野次馬だな・・・」

「結局わかったのはマスターとサーヴァントのクラスだけか・・・」

「期待しすぎるのは無しだぞ、雁夜・・・まあ、申請しに行つてくるとするか・・・」

「そうだ、陣地作成しておくか」

（言峰綺礼 side）

「イレギュラーサーヴァント？」

私は父、言峰璃正に聞いていた・・・

「ああ、クラス名はわからんが8体目のサーヴァントとなる、

これは異常事態だ・・・以前の聖杯戦争には起きなかった事だ」

『気にする事は無いでしょう、アーチャーに勝てるサーヴァントは
いない、』

ただ1体増えただけだと考えれば良いでしょう、それにマスター
が桜なら問題は無い』

時臣師も父も何の問題も無いように話す・・・

「それでは、アサシンの数を間桐邸に増やしておきます」

「それでは私は申請に来るであろう間桐桜を待つとします」

『ああ、頼みましたよ言峰さん、綺礼は引き続き監視を頼む』

「わかりました・・・」

何か突っかかりがある・・・まるで私の中の疼きが出てくる様に、

イレギュラーサーヴァント・・・私の答えのきっかけにもなるのか？

第3話混沌の提案（多重視点に変更）（後書き）

天儀凌「という事で第3話です！」

ケイオス「何か綺礼に目を付けられたな・・・」

天「フラグ立ったね・・・」

ケ「ま、頑張るとしますか

『混沌の後継者 Fate/Zero Eclipse』をよろしく頼む」

天「来年もよろしくお願いします！他作品希望アンケート、挿絵募集中です！また、イメージCDVを探している最中です」

特別編・混沌の元日

一月一日某時天儀凌の家にて・・・

天儀凌「こたつは良いな、暖かいし、みかんだし、四人だし・・・」

ケイオス「ん？四人だと・・・っておい」

カオス「ふむ、基本的に第0話でしか出番が無いのでね・・・」

???「あら、ケイオス、細かい事を言っちゃだめよ？」

天「NOOOOOOOOOOOOOOOOOOOOO!？あんだ、??
?!出ちゃだめだよ！」

ケ「諦めろ、凌・・・こいつ、なんだし・・・」

天「お前もやめろおおお!!ネタバレ、ネタバレだから!!他は
良いんだよ、

俺の悪口とか、悪口とか悪口とか・・・」

カ「面倒だからどうせだ、定番の麻雀でも・・・」

天・ケ・？「「乗った！！！」」

天「ケイオスウウ！てめえの没ネタ出してくれるわああ！！」

ケ「ざけるなああ！！俺はカオスの没ネタをだすんだああ！！」

？「私はケイオス狙いよ？作者と協力ね？」

カ「ならば私は敢えてケイオスの没ネタを景品狙いにしよう」

ケ「何・・・だと！？」

天「既に君以外は籠絡しているのですよ（笑）」

ケ「くそ、てめえら全員相手してやる！」

？「ふふふ、死亡フラグねそれ」

「三十分後」

天「ロン、小三元、混一色、ドラ3、跳ねたな・・・」

ケ「もう一回だ!!」

カ「苦しむだけだろうに・・・」

「二時間後」

?「ツモ、七対子、ドラ4、6000、3000よ・・・跳ねたわね」

ケ「く・・・」

カ「君だけ跳ねて我々は30000以上はあるからな・・・さて、」

天「はい、ケイオスの没ネタを発表します！これ以外今ネタが無いので」

ケ「嘘つけ！」

天「はい、負けた人は黙りなさい、ではどうぞ！」

「例えば、ケイオスが・・・」

ケ「ん、ここは？」

キャスター「あら、ここがわかるかしら？」

ケ「ふむ、アサシンだな俺は・・・」

キ「あなたの真名は？」

ケ「・・・ケイオスⅡⅢカイザーだ」

キ「知らないわね、まあ精一杯働いてもらっわよ」

ケ「はあ、いいだろう・・・この戦い荒れさせてやろう」

「例えば、ケイオスが・・・」

「一応は聞きますが貴方は？」

「俺はケイオス、ケイオスⅡⅢカイザーだ、俺に何か用か・・・」

「私の守護騎士になって欲しいのです、あなたの力と人格を見越して・・・」

「は？まあ良いが俺なんかで良いのか？」

「あなたは天涯孤独な癖に、人を救い続けた英雄なのでしょう？」

「どうだろうな、ただの人殺し（・・・）かもしれんぞ？」

「別にそんな顔はしていませんよ?」

「んん・・・わかったよ、オリヴィエ・ゼーゲブレヒト、俺は君の刃と成り、盾と成る」

「例えば、ケイオスが・・・」

「待つて、待つてよ!」

「む?私は君に呼ばれる筋合いは無いぞ?」

「嘘、あなたは私を救った!!そうでしょう?」

「あれは依頼だった、それだけだよ・・・」

「それでも、ケイオスあなたはいつまでも闇を背負うの?あなたは・・・」

「良いんだよ、俺は幸せだろお前に心配されてさ・・・」

「待って、消えないでよ！！ケイオスー！！」

「なあに、いずれまた会えるさ、じゃあなエヴァンジェリン・・・」

ケ「あのさあ・・・」

天「何？」

ケ「最初はモブ、後の二つは別作品入ってるだろうがー！！
（今更ですがキャラは崩壊しています）」

カ「構わんだろう・・・君の事だ、

自分がグッドにもバッドにも行けないくらい知っているだろうにね・・・」

？「良いんじゃない？気にしたら負けよ・・・」

天「そうそう、やれと言われたら即検討、実行の俺だぞ？」

ケ「いい加減にしろー！！」

天「はあ、わかったよ・・・終われば良いんだろ？」

『混沌の後継者 Fate/Zero Eclipse』を来年
もよろしく願います！

アンケート投票、挿絵、ご意見ご感想どしどしどうぞー！！」

カ「ああ、私や、？？？の登場もあるらしいから安心したまえ」

？「いずれ本編で会いましょうね！」

ケ「俺は本当に主人公なのか？」

天「いや、特別編で君の良い所は無いんだ」

ケ「畜生おおおお！！」

第4話混沌の探り合い（前書き）

どうも、天儀凌です！

総合PVAクセス50000越え、総合ユニーク90000越え・・・

本当に感謝です！

それでは第4話どうぞ！

第4話混沌の探り合い

（間桐桜 side）

腕輪を付けた時から1日経った・・・

『どう、ルーラー？』

『間違いない・・・奴ら（・・・）は気付いてるなこれは』

ルーラーの言った通り、アサシンが私を監視しているみたい・・・

『どうすれば良い？』

『幻術を掛けたんだ、アサシン程度ならばれないさ』

『でも、髪や目に『退行』を入れただけで大丈夫？』

『『黒』を入れてもしょうがないからな、それなら『退行』で問題無いし、

桜も俺にふさわしい（・・・・・・・・）マスターになったんだ、

誇るといい、気配探知も攻撃も防御も蟲を使って出来る、

魔力値も申し分無いしな・・・・・・・・後は謀略戦だけということだ・・・・・・・・

『うん、わかった』

ルーラーがこれだけ褒めているんだ、後は頑張るだけだ・・・

『さ、行つてくると良い』

『うん・・・・・・・・』

私は言峰教会（あぶない所）に入っていた・・・

〔衛宮切嗣 side〕

僕は部下である久宇舞弥に電話をした・・・

「という事は、間桐桜が8人目のマスターとして参加する事になったか」

「それはイレギュラーなのでは？」

「僕もそう思う、既に（・・・）間桐雁夜がマスターとして参加している上でだからね」

「だが、マスターになったのは事実です・・・教会に行ったのは五分前くらいといった所

かと、サーヴァントのクラスはルーラー、イレギュラーサーヴァントだそうです」

「イレギュラーサーヴァント、クラスはルーラーか・・・」

「情報が少ないですが・・・」

「構わないよ、落伍者と子供に過ぎない、これ程攻めやすい

マスターはいないだろうからね、いくらサーヴァントが強くても意味がないさ」

「マダムには？」

「FAXが既に来ているからね・・・問題無いよ、充分に気を付けるようにね」

「今後はどうしますか？」

「基本は、情報探索に努めてくれ・・・出来れば詳しくね」

「了解しました」

舞弥との通信を切る・・・一体ルーラーとは何者なんだ？

僕はこの戦い、不安を感じていった・・・

言峰綺礼 side

「私、間桐桜は聖杯戦争の約定に従い、聖杯戦争の参加を宣言します」

「受諾する、監督役の責務に則って、言峰璃正があなたの参加を認める、

あなたに祝福の加護が有らん事を」

「では失礼します、言峰璃正さん・・・」

「ええ、それでは」

「もう良いぞ」

「どうですか？彼女は・・・」

私は父に間桐桜の感想を聞いてみた・・・

「ふむ、普通の少女のようなものだ・・・魔術回路が多くても、警戒には値しないだろう」

「そうですか・・・」

そうは思えない・・・私の中で疼く、衛宮切嗣と同じ（・・・）様に・・・

『桜が何故聖杯戦争に参加出来たかは知らないが、昔を思い出すね、

間桐家に行っても変わっていないようだな』

時臣師も言っているが嘘だ・・・私の様に空虚だ・・・

昔の間桐桜とは絶対に違う、私にはわかる・・・

「では、間桐家周辺にアサシンの数を増やしておきます」

『ああ、任せたよ綺礼』

間違いなく間桐桜は空虚が有る・・・なのに光が有る、

私とは違うのか、彼女は答えを得て前に進むと言っのか!?

ルーラー、間桐桜・・・そして衛宮切嗣、待っている・・・

私はこの答えを必ず見つけ出してみせる・・・!

）間桐桜 side）

『どうだったかね？』

ルーラーは確かめる様に聞いてきた・・・

『うん、誰か（・・・）居たのはわかった』

『さて、早めに戻って練習に努めて出来るだけ強くなってもらうぞ』

『どうなるのかな？この戦いは・・・』

本当に一体どうなるんだろう？

『さあな、間違いなく壊れた（・・・）戦いだ、誰もが後悔する事

が無いなら良いんだが』

『勝つよ、その為に戦うんだ』

『ふ．．．任せろ、俺の混沌を破る事適わず、消す事は完全に無い．
．．

だがこの戦いに不可能だらけ、選択肢だらけだ』

間桐桜、ルーラーの参戦、この世界最大のイレギュラー．．．

第四次聖杯戦争は正史とは違う道を辿る．．．

この戦いは様々な運命が破壊され、創造されていく．．．

はたしてこの運命（f a t e）はどのような道筋を辿るのか？

F a t e / Z e r o E c l i p s e ．．． 光と闇が交錯する時混沌の戦いが始まる．．．

「さて、ケイオス．．．君は光と闇の混沌を選んだかね、せいぜい頑張ってもらおうか、

私も出てくる場合もあるだろうからね・・・はははははは「

傍観者さえも乱入する運命に答え等見つかりはしない・・・
さあ、混沌を始めよう・・・

第4話混沌の探り合い（後書き）

天「はい、ちょっと仕掛けた第4話です！さりげなくフラグ？投入です、

わからない場合はどこか探して下さい」

ケ「総合PVアクセス午前11時現在で50125アクセス、

総合ユニーク9959人だとはな」

天「本当にありがとうございます、感謝です！」

ケ「これからもよろしく頼む、

『混沌の後継者 Fate/Zero Eclipse』を応援よろしくな」

天「他作品希望アンケート、挿絵募集中ですよ！」

第5話混沌の準備（前書き）

どうも、天儀凌です！

すいません・・・2日程遅れました！

それでは第5話どうぞ！

第5話混沌の準備

＼other side＼

黄金のサーヴァントが黒いアサシンを蹂躪していく様を

他の5組のマスターは見届けていた・・・

＼間桐桜side＼

「む、アサシンがやられたかな？」

「うん、蟲もそう言ってるし・・・」

「おかしいな、代行者がわざわざそんな事をする道理が無い、ここは疑ってかかるう

というより間違いなく組んでいるのだから俺達も気にしないで大っぴらに

「暴れれば良い、アサシンを引き込めばこっちの領域だ」

ルーラーは考え事をしながら笑っている・・・アサシンの正体を明かす気満々だ・・・

「後、父さんのサーヴァントなんだけど・・・」

「金ぴかだったか？あの宝具の量、ステータスの高さ、プライドの高さ・・・」

並の英霊じゃないだろうな、まだ正体は掴み兼ねるが・・・」

「ちょっと良いか？」

雁夜おじさん・・・

「あれは俺とバーサーカーでやる、おそらく相性も良いだろう」

「正気か？後短くて数年、長くて十年程しかもたないお前が、

あのアーチャーになあ・・・正直阿呆の極みだろうに」

・ ルーラーの言う通り、雁夜おじさんの身体は既に限界に近いのに・

「そうだよ、おじさん・・・無理したら」

「既に無理してるんだ、もう慣れてる」

「はあ・・・面倒だ、バーサーカーの真名があの騎士なのだから、

もう押さえつけれてるんだろうな？」

ルーラーは諦め、状況把握を始めた・・・私情と思惑をすぐ切り替える、

私には出来ない事だ・・・

「わかってるさ、絶対に死にはしないよ・・・お前には借りが有るしな」

「それなら良いよ、あいつの関わりの有る奴がいたらそつちを重要視しろよ・・・」

今回は嫌な予感がするんでな」

「わかった、そうしておく」

雁夜おじさんも若干冷静さを欠いているかもしれないけど落ち着いている・・・

「なあに桜、今回の聖杯戦争が終わったら、君ら4人くらいでどこか出かけるといい、

絶対に聖杯を壊す（・・・）・・・どういつ結末であったとしてもね」

（言峰綺礼side）

「聖杯戦争の約定に従い、言峰綺礼は聖堂教会による身柄の保護を要求します」

「受諾する。監督役の責務に則って、言峰璃正があなたの身の安全を保障する。」

さあ、こちらへ」

私は警戒しながら教会の中に入った・・・

「万事、抜かりなく運んだようだな」

「父上、誰がこの教会を見張っている者は？」

「ない、ここは中立地帯として不可侵が保障されている・・・」

余計な干渉をしたマスターは教会からの諫言があるからな、

そんな面倒を承知の上で敗残者に関心を払う者などいる道理があるまい」

嫌な予感がする・・・いや、思い違いだろう・・・

「では、安泰ということですね」

万が一にも備えて・・・

「・・・念のため、警戒は怠るな。常に一人はここに配置するよう
に」

「・・・それと、現場の監視をしていた者は？」

あの惨状を監視していたアサシンを呼ぶ・・・

「はい、私でございます」

湧いて出てきたかのように黒衣の女のアサシンが出てくる・・・

「アサシンの死の現場に居合わせた使い魔は、気配の異なるものが
五種類ありました、

少なくとも五人のマスターが、あの光景を見届けたものと思われます」

「ふむ……一人足りないか」

やはり、間桐桜も使い魔を使役できる……これはどういう事だ？

つまりは普通の魔術師と劣らない（……）という事だろう？

その上一人は見ていない……

「父上、『靈器盤』は間違いなく、八体のサーヴァントの現界を感じていたのですね」

「ああ、相違ない……一昨日、最後の『キャスター』と『ルーラ』が現界した。」

相変わらずキャスターのマスターからの名乗り出はないが、

此度の聖杯戦争のサーヴァントは八体というイレギュラー（……）……
……）がありつつも

すべて出揃っているはずだ」

「そうですか………」

私としては六人全員がに今夜の茶番を見てもらいたかったのだがな・
・

「そもそも今の局面で御三家の邸宅を監視するというのは、

聖杯戦争に参加するマスターとして当然の策でございましょう・・・

その程度の用心も怠るような者であれば、どのみち我ら（・・）
アサシンを警戒する

神経など最初から持ち合わせておりますまい。結果としては問題ないかと」

「うむ……死なせて惜しかった男か？アレは」

「あのザイドは我ら（・・）ハサンの一員としても、取り立てて

得てのない一人でした。

.....」

結局、アサシンからの情報に衛宮切嗣は出てこない・・・

かと言って、間桐桜はどうかと言われてもこちらも情報不足だ・・・

私は本当にこの答えを見つけ出さなければならぬ・・・

父の聖杯への熱意とは裏腹に私の熱意は聖杯から離れていった・・・

第5話混沌の準備（後書き）

天儀凌「総合PVアクセス62891、総合ユニーク11925人！」

ケイオス「本当に感謝する、こんな作者によく付き合ってくれた」

天「ひどい！しかも最終回風とか！？」

ケ「では『混沌の後継者 Fate/Zero Eclipse』をよろしく頼む」

天「無視！？まあ良いやもう・・・」

他作品希望アンケート、挿絵募集中ですよー！！！！」

第6話混沌の戦闘準備（前書き）

どうも、天儀凌です！

それでは第6話です、ご覧ください！

第6話混沌の戦闘準備

ルーラー side

・ さて、最高の高さ五〇メートル以上になる冬木大橋に居る俺だが・

理由としてあれからまた一日経って探索していたんだが・

「ラ、イ、ダー、早く・

降りよう、ここ・

早く！」

おい、大丈夫なのか？ライダーのマスター・

ウェイバーだったか？

「おいおい・

わざわざこんなマスター連れ出して、良いのかラ

イダー？」

「見張るには逃え向きの場所くらいはわかるのではないか？ルーラ

ー・

まあ今暫くは高みの見物と洒落込もうではないか」

そうライダーはワインの酒瓶をぐびりと呷りながら、

漫然と奴は・・・俺もだが・・・海浜公園を見下ろしている・・・

サーヴァントの気配を感じるので偶然会ったライダーに付きあっている・・・

まあ、マスターの方は「何でワイン飲み合ってるんだ!？」と言っていたが・・・

「わかるんだがな、どうも・・・面倒だと思っんだが?マスターと一緒に連れて」

そう言っただけはワインを飲む・・・うーむ、酒が創ってみる(・・・)か?

「アレは明らかに誘っておる、ああもあからさまに気配を振りまいていれば、

すでに余やルーラーだけでなく、他のサーヴァントたちも奴を見つけて

様子を窺っていることだろう・・・放っておけば、いずれ気の短いマスターが

痺れを切らせて仕掛けるかも知れん、それを期待して成り行きを見守る手だな」

『どうする？マスター・・・』

『ライダーと話してて良いよ、多分組んでいる事はバレバレだしね』

『了解だ、そうしてもらおう』

「こちらも待つかな、もしも来ないならせいぜい暴れさせてもらうよ・・・」

もしもの場合は奇襲でも構わないんだろう？ライダー」

「そうか！フハハ・・・いや、なかなか業の有る奴・・・お主、どこの英雄だ？」

ライダーは真剣な表情でこちらを見つめる・・・

「ふむ・・・君らとは一線を隠す英雄だからな、正直英雄が羨ましいな・・・」

かと言って反英雄にも成りきれない半端者だよ俺はね」

ふむ・・・と言って考え始めるライダーもといスカンダル王・・・

俺としてはアレキサンダーとかアレクサンドロス大王なんだがな・・・

「お、降りる！いや、降ろせ！も、も、もう嫌！」

「まあ待て、落ち着きのない奴め・・・坐して待つのも戦いくさのうちだぞ」

「酷なのはわかるぞ、それでも一般常識を知ってるからな・・・後諦める」

「頼む、ルーラー助けてくれー！！もう嫌だー！！」

「はあ・・・はやく戦いが進んでくれないかね？」

「おい！ルーラーもう一杯だ！！」

「ほいほい、すぐ行くぞ・・・」

「おい、小僧・・・そんなに手持ち無沙汰なら、預けてある本でも読んでおれ・・・」

「良い書物だぞ」

「ライダー・・・なんで、こんな本、持って、きた？」

「ほう、『イリアス』か・・・あの時代の中なら壮大な大叙事詩だな」

「イリアスは深慮だ・・・戦いの最中にも、ふと詩歌の一節が気になって」

仕方がなくなるときが、ままあるのでな・・・そんなときには、

すぐさまその場で読み返さんと気が済まんだ」

「おいおい・・・本気か？」「その場で、つて・・・戦場で？」

ライダーの言った事に質問を返す俺とウェイバー・・・

「うむ」

「戦場で・・・戦いながら？剣、振りながら？」

「そうだ」

さも当然のことのようにライダーは頷く・・・

「・・・どうやって？」

「右手で剣を執るときは左手で・・・左手が手綱を握るときは、隣の小姓に音読させた」

「・・・」「おいおい、マスターを沈黙させてどうするんだ、

ライダーよ」

「良いではないか、この程度の冗談ならば誰もが笑い飛ばしたのは
真実、

青くなって呆けるようでは、まだまだ肝が細すぎるのう余のマス
ターは」

「帰りたい……イギリスに帰りたい……」

「同情するぞ、ライダーのマスター……、む？状況がようやく動
いたか」

「何？この征服王としたことが……公園にもう一人別のサーヴァ
ントがおったようだな、

そいつも気配を隠さんとは……敵に近づいておる」

「じゃ、じゃあ……」

「二人とも向こうの港へ近づいていくな、という事は……」

「売り言葉に買い言葉、というわけだ・・・これは一戦やらかすと見て良かるう?」

「同感だ、さて先に待ち伏せするか?」

「いや、ここは正々堂々挑む、奪う、征服する・・・それが余の王道よ」

「さて、どうなるかねえ・・・ま、狙撃させて欲しいなあ・・・」

「いかんと言っている、もっと派手なのは無いかのう?」

「わかった、^{アーチャー}弓兵ではなく、^{ライダー}騎乗兵の真似事で良いか?」

「ほう?見せてくれんかの?」

「行く時に見せてやるよ、なあに・・・君の宝具のような神秘を持つ奴さ」

第6話混沌の戦闘準備（後書き）

天儀凌「はい、ライダーと会いました！」

ケイオス「そろそろ見せ場だな」

天「さあ、頑張りますよ！」

ケ「『混沌の後継者 Fate/Zero Eclipse』をよろしく頼む」

天「他作品希望アンケート、挿絵募集中ですよ！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8314z/>

混沌の後継者 Fate/Zero Eclipse

2012年1月8日20時53分発行